

第79回 医学教育セミナーとワークショップ



2021年 5月 22日(土) ~ 23日(日)

併催 第22回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修

eシナジウム “医療者教育スターターキット”

全国共同利用拠点第3期事業

TL

～教職協働で基本を学ぶ動画コンテンツ公開！～

座長：藤崎和彦・早川佳穂 (MEDC)

Webinar 学校・教育委員会との教職協働

CD

講師：平澤紀子 (岐阜大学)

eWS-1 学生に寄り添う支援とは ～メンタルヘルスに注目して～

ML

企画：川上ちひろ (MEDC)、堀田 亮 (岐阜大学)

eWS-2 オンライン教育 (同期・非同期) における

教職協働の教育実践

TL

企画：浅田義和 (自治医科大学)、村岡千種 (北海道科学大学)、八木街子 (自治医科大学)

eWS-3 明日からの教育実践を言語化しよう！

FELLOWSHIP

—学びと成長を促す医療教育者を共に目指して—

TL

企画：早川佳穂・今福輪太郎・川上ちひろ・恒川幸司・西城卓也 (MEDC)、石木 学 (富山大学)、石黒一美 (日本歯科大学)

eWS-4 オンラインFDを考える

ML

企画：近藤 猛 (名古屋大学)、木村武司 (京都大学)、橋本忠幸 (橋本市市民病院)、清水郁夫 (信州大学)

eWS-5 研修医の感受性を磨く医療倫理教育—法を知り、ACPを紐解く

TL

企画：高橋美裕希 (愛知医科大学)、平井利明 (京都大学)、奥村将年・森 直治・早稲田勝久 (愛知医科大学)

eWS-6 評価者が患者役となる臨床推論問題作成

A

(paper patient以上、模擬患者未満)

企画：石原 慎・荒川 敏・稲熊容子 (藤田医科大学)

5月22日(土)			
9:00-12:00	eシナジウム		
13:00-15:00	eWS-1①	eWS-2①	eWS-3 (13:00-17:00)
15:15-17:15	eWS-1②	eWS-2②	
17:30-18:30	Webinar		
5月23日(日)			
9:00-11:00	eWS-4	eWS-6 (9:00-13:00)	
12:30-14:30	eWS-5		



* 緑色は、教務事務職員研修と合同となります。なおeWS-1、eWS-2は同じ内容のWSを時間帯別に2回行います。

* 記号 (TL 等) は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は、MEDCホームページをご覧ください。

申込締切 2021年 5月 9日(日)

定員を設けております。申込順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。なお、当日参加は受け付けません。「ZOOM (Web会議システム)」を利用します。今後の改善の参考にするため、録画いたします。ご理解とご協力をお願いいたします。

第80回 聖隷浜松

2021/11/13-14

第81回 岐阜(Web)

2022/1/22-23

第82回 岐阜 併催

第23回教務事務職員研修
2022/春

※ 今後の社会情勢によっては、開催方法や会場の変更があるかもしれません。ご了承ください。

eシナジウム “医療者教育スターターキット”

TL

～教職協働で基本を学ぶ動画コンテンツ公開！～

全国共同利用拠点第3期事業

座長：藤崎和彦・早川佳穂（MEDC）

日時：5月22日（土）9:00～12:00（3時間）

概要：このたび、MEDCは文部科学省・医学教育共同利用拠点第3期事業として、全国の医療系大学や保健医療福祉施設で卒前の医療者教育に関わり始めた教職員を対象としたe-learningプログラム“医療者教育スターターキット”を開発しました。学外の各分野に精通されている講師にもご協力を頂き作成した動画教材をはじめとした医療者教育の基本コンテンツを教員、事務職員が共に学び、理解することを目的としています。本eシナジウムでは今秋からのプログラム実施に先立ち、動画教材の一部を公開し、意見交換を行いたいと思います。

Webinar 学校・教育委員会との教職協働

CD

講師：平澤紀子（岐阜大学）

日時：5月22日（土）17:30～18:30（1時間）

概要：教職課程の改善モデルとして開始された教職大学院は、今や全国の教員養成大学に拡充している。そのミッションは、高度な教育専門職の養成であり、そのためには大学教員と学校や教育委員会の教職員との協働が求められる。この場合、専門教育のカリキュラムや連携の仕組みだけでなく、それぞれがもつ文化の融合が必要になる。本セミナーでは、岐阜大学教職大学院が取り組んでいる学校管理職養成を取り上げながら、学校や教育委員会と教職協働を行う上で大切にしていること、難しいこと、可能性について考えてみたい。

e

WS-1 学生に寄り添う支援とは ～メンタルヘルスに注目して～

ML

企画：川上ちひろ（MEDC）、堀田 亮（岐阜大学）

日時：5月22日（土）13:00～15:00、15:15～17:15（2時間 同じ内容のWSを時間帯別に2回行います）

概要：2020年度の全世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、これまで当たり前とされてきた社会での活動そのものの見直しを迫られました。高等教育においても例外ではなく、多くの学校では施設に集まることで成り立っていた学校生活が、感染拡大防止のため集まらない授業・研究・クラブ活動・仲間との交流などが求められました。

感染が流行し始めた当初は、教職員は限られた業務や活動の中、学生がどのような生活を送っているのか把握するのが困難であったため、どのような介入が必要かもつかぬまま手探りで対応に当たっていました。感染がなかなか収まらず閉塞感が長引くにつれ、教職員・学生ともに“コロナ疲れ”をしてきていることも否めません。この先どのような状況になるか予測がつかない中で、心配されるのは学生の心身の健康状態です。このワークショップでは昨年度の状況をふりかえり、学生がどのような状況であったのか、どのような対応がされたのかなどをふりかえり、今後のメンタルヘルスへの対応策を事務職員・教員とともに考えます。

対象：学生支援に関わっておられる教職員、この内容に興味がある教職員

定員：40名×2

e

WS-2 オンライン教育（同期・非同期）における教職協働の教育実践

TL

企画：浅田義和（自治医科大学）、村岡千種（北海道科学大学）、八木街子（自治医科大学）

日時：5月22日（土）13:00～15:00、15:15～17:15（2時間 同じ内容のWSを時間帯別に2回行います）

概要：2020年度、多くの大学等でオンライン教育への転換が行われてきた。この中には、Zoom等のWeb会議システムによる同期型、Moodle等のLMSを用いた非同期型などがある。これらの方略の特徴や実施環境・システムの向き不向きを理解し、授業を再設計することが求められる。

オンライン教育では種々の学習履歴を残すことも可能となる。Web会議システムのチャット履歴や録画、LMSでの種々のログが例として挙げられる。工夫次第で様々な形成的・総括的な評価への利用も可能となる。昨今の医学教育分野別評価などに求められる教学IRにおいても、学習履歴データの活用は不可欠となる。

一方、オンライン教育には、教職連携による準備・運営体制が欠かせない。これらの背景に鑑みて、本ワークショップでは以下の2項目を扱う。

- (1) オンライン教育の準備・運営における教職協働の必要性
- (2) オンライン教育で得られる学習履歴の活用検討

対象：オンライン教育の実践を行っている / これから行う予定である教育担当者、およびその支援を行う事務担当者

定員：20名×2

e

WS-3 明日からの教育実践を言語化しよう！

FELLOWSHIP

TL

～学びと成長を促す医療教育者を共に目指して～

企画：早川佳穂・今福輪太郎・川上ちひろ・恒川幸司・西城卓也（MEDC）、石木 学（富山大学）、石黒一美（日本歯科大学）

日時：5月22日（土）13:00～17:00（4時間）

概要：学習者が受動的から能動的に、依存的から主体的になるためには、教育者は何ができるでしょうか。長期的な観点から医療者としての学習者の「成長」を促すためには何ができるでしょうか。となく、「研修生のやる気を出させることまで指導者の仕事なのか」「積極性のない学生は何をしても響かない」などと、教育者の視点のみで教育を議論しがちです。そのようなパラダイムから脱却するには、どうすればいいでしょうか。本WSで参加者はこれまでの教育実践や学習経験のエピソードを持ち寄り議論します。そのうえで主体的・対話的で深い学びを引き出す仕掛け・評価・成長を促すための今後の教育実践について共に考えます。

（本WSは、フェロシッププログラム・メドギフト2021の一環として実施します。）

対象：フェロシッププログラム メドギフト2021参加者限定（一般の参加者は受付しておりませんのでご了承ください。）

企画： 近藤 猛（名古屋大学）、木村武司（京都大学）、橋本忠幸（橋本市民病院）、清水郁夫（信州大学）

日時： 5月23日(日)9:00～11:00（2時間）

概要： 新型コロナウイルスの流行下において、多くの対面型の講習会やワークショップがオンライン化を余儀なくされた。医学生の授業や研修医の教育についての国内外から様々な実践が報告されるなか、ファカルティ・ディベロップメント(FD)への取り組みも増えてきている。本ワークショップでは、オンライン化をただの代替ではなく学習機会を拡大する手段ととらえるために有用な認知負荷理論、実践コミュニティなどといった理論を共有する。その後指導者育成(FD)のオンライン化を経験した企画者らがその実践を共有する。参加者はグループディスカッションを通して事例を分析する。これを踏まえて、参加者の実践を振り返ることで、自身の現場でのオンラインでの医療者教育の企画や改善に繋げていく。なお、参加者には、オンラインFDの手法の一つである反転学習を経験していただくため、簡単な事前課題（所要時間30分以内）をお願いする予定である。

対象： オンラインでの医療者教育に関心のある全医療職

定員： 20名

企画： 高橋美裕希（愛知医科大学）、平井利明（京都大学）、奥村将年・森 直治・早稲田勝久（愛知医科大学）

日時： 5月23日(日)12:30～14:30（2時間）

概要： 研修医が倫理的に難しい場面で適切に行動するために、教育者はどのように導くのか。医師臨床研修指導ガイドラインにおいても「医学・医療における倫理性」は資質・能力の到達目標の最初に掲げられている。研修医が日常的に医療倫理を学ぶ習慣を身につけるためには、教育者に重要な役割がある。一方で教育者が医療倫理を系統立てて学ぶ機会が少なく、手探りで指導をしている現状である。教育者が医療倫理教育の道標を置くことを目標に、本ワークショップを立案した。法に反するという理由で安易に思考を止めないために、法律家を交えて「現在の法で決まっていること、決まっていないこと」を知る。そのうえで研修医が経験すべき必須項目とされているACPIについて、4分割表に収めるだけで終わらせない研修を検討する。ワークショップ全体を通して、倫理的に難しい場面で要となる「感受性と気遣い」を伸ばす教育の可能性を探りたい。

対象： 研修医教育に携わる医療者、医療倫理教育に興味のある教員・医療者・研修医

定員： 20名

企画： 石原 慎・荒川 敏・稲熊容子（藤田医科大学）

日時： 5月23日(日)9:00～13:00（4時間）

概要： 紙の臨床問題では、典型的な病歴、採血データ、画像所見が予め提示され、それを基に解答する。しかし、実際の臨床では、自分で聞き、検査オーダーをしたことのみ情報を得ることができる。それを実現するためには、模擬患者さんの協力が必要であるが、人数の限りがある。そこで、評価者が患者役（演技なし）となり、聞かれたことに答える、身体診察は所見を画像または動画で提示し学習者が所見を判定する、また、血液検査では測定したもののみ提示したり口頭で答えたりする。画像もシリーズ全てを提示する。などの臨床に近い問題を一緒に作成し共有したいとします。

対象： 臨床医学や臨床研修、看護学他に携わっている方

定員： 18名



参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2021年 5月 9日(日)

参加費： 2,000円 学部学生無料

(別途システム利用料として220円がかかります)
参加費のお支払いについては、インターネットからお申し込み後、MEDC事務局からの自動返信メールにてご案内いたします。
参加費は、資料ならびにセミナーワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。

開催方法： ZOOM (Web会議システム)

※定員を設けております。申込順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。
なお、当日参加は受け付けいたしません。
今後の改善の参考にするため、ワークショップ等を録画いたします。
ご理解とご協力をお願いいたします。

今後の予定： 以下のスケジュールを予定しております。
今後の社会情勢によっては、開催に変更があるかもしれません。
ご了承下さい。

第80回 聖隷浜松

2021/11/13-14

第81回 岐阜(Web)

2022/1/22-23

第82回 岐阜 併催

第23回教務事務職員研修
2022/春